



軍馬の郷に笑顔があふれ 子どもも大人も喜ぶ場所にしたい



おいかわ おさむ
及川 治さん (84 歳) 穴持在住
ちば みつぐ
千葉 貢さん (71 歳) 上の町在住

軍馬の郷六原資料館管理人を務める二人。軍馬の郷を訪れた人たちに馬を見せたいという思いからすべて手作りで馬を作り上げた。わら馬は治さん。木馬は貢さんがそれぞれ制作した。

制作した馬たちの隣で笑顔を向ける治さん（右）と貢さん（左）



2月4日立春。軍馬の郷六原資料館に馬の親子が誕生した。その2週間後集まるように新たにもう1体の馬が誕生。この馬たちの生みの親が治さんと貢さんだ。「軍馬の郷を訪れた人たちがこの馬たちを見て笑顔になってほしい」と願いを込めて制作した。

平成28年10月にオープンした軍馬の郷六原資料館。同館館長を務める村井浩二郎さんが「軍馬の郷だから馬を置きたい」と発案したのをきっかけに、動きだしたのが同館管理人を務める治さんと貢さんだった。毎年地区の小学生にしめ縄づくりを教える治さんがわら馬。趣味で庭に池を手作りするほどのづくりが得意な貢さんがわら馬の土台と木馬を制作した。「少しでも本物に近づけるため何回も直しながら試行錯誤の連続だった。完成後にここに持つてくるときは少し寂しさを感じるほど熱が入っていた」と治さん。「わら馬完成後に乗れる馬もいたほうが喜ぶ人が増えると想い急遽制作した。子どもが喜べば親やみんなの笑顔につながるからね」と笑顔で話す貢さん。設置後は来館者はまず馬たちを見てから建物を見学し、資料館のシンボルとなっているという。

二人は「今後はこの馬たちを維持していくために、自分たちが健康でいることが第一。元気に過ごし六原の歴史を伝えていければ」と話していた。

広報日記



今月号の表紙の雪遊び。千貫石森林公園で保育園児たちが楽しく遊ぶ姿を取材させていただきました。雪に足を取られながら必死でシャッターを切っていると「一緒に乗ろうよ」と声をかけてくれた子がいました。「よし」と思い園児と一緒にソリに乗り込む大きな大人。小学生以来のソリ遊び。楽しかったです！そのあとも僕も私もたくさんの子が声をかけてくれ人生最大のモチ期が到来。そんな出来事もあり楽しく取材を終えることができました。遊んでくれた園児の皆さんありがとうございました。(阿部)

人口と世帯		2月28日現在	
		※()内は前月比	
人	□	15,587人	(- 47)
男		7,888人	(- 34)
女		7,699人	(- 13)
世帯数		5,988世帯	(- 27)